

安積開拓官舎（旧立岩一郎邸）とは？

福島県職員用住宅

安積開拓官舎（旧立岩一郎邸）は、開成館と同時期に建てられた福島県の職員用住宅（官舎）である。安積開拓事業を担った「福島県開拓掛」の職員のために3棟建築され、唯一現存する1棟が「安積開拓官舎（旧立岩一郎邸）」である。

建築された当初は、政府高官が出張した際の宿泊施設としても使用され、伊藤博文^{ひろぶみ}や松方正義^{まさよし}も宿泊した。

立岩一郎とは？

立岩一郎は、米沢藩士立岩善五郎秀年（後の千秋）を父とし、大関周太の姉を母として天保10年（1839）5月10日に米沢城下で誕生した。幼名は秀助である。

一郎は、幕末の米沢藩で探索方などを勤めた。戊辰戦争では、同じ米沢藩士の中條政恒と共に新政府軍と戦い、戦後は会津藩の戦後処理にあたった。

明治5年（1872）に福島県官となった中條政恒により、置賜県（旧米沢藩）から呼び寄せられた一郎は、福島県十一等出仕、聴訴分課に採用された。その後、第三区（信夫郡飯坂村（現在の福島市飯坂町））の区長や二級判事補、警部などを勤めた。明治9年（1876）に行われた明治天皇巡幸の際は、「御巡幸事務掛」に任命され、準備に奔走した。

明治12年（1879）からは、福島県勸業課開拓科出張所長を務めた。開墾事業が開始されてから数年たち、様々な問題が発生する中、対応に奔走した。

安積開拓官舎（旧立岩一郎邸）の復旧

令和3年（2021）2月13日に発生した福島県沖地震により被災した安積開拓官舎（旧立岩一郎邸）は、令和4年（2022）より復旧作業と柿葺き（木羽葺き）屋根の葺き替えを行った。

柿葺きとは、板葺き屋根のことで、手割りした板を重ね、竹釘で留めて葺いたものである。木の繊維に沿って割られた板は、水が染みにくく、腐りにくいのが特徴である。また、竹釘を使用することで、錆びなくさせる効果があるが、かつては金属の釘が高価であったことも竹釘が使用された要素のひとつでもある。



福島県沖地震で被災した安積開拓官舎（旧立岩一郎邸）の様子（玄関の間）



復旧工事の様子



被災前の安積開拓官舎（旧立岩一郎邸）



たていわ いちろう
立岩 一郎

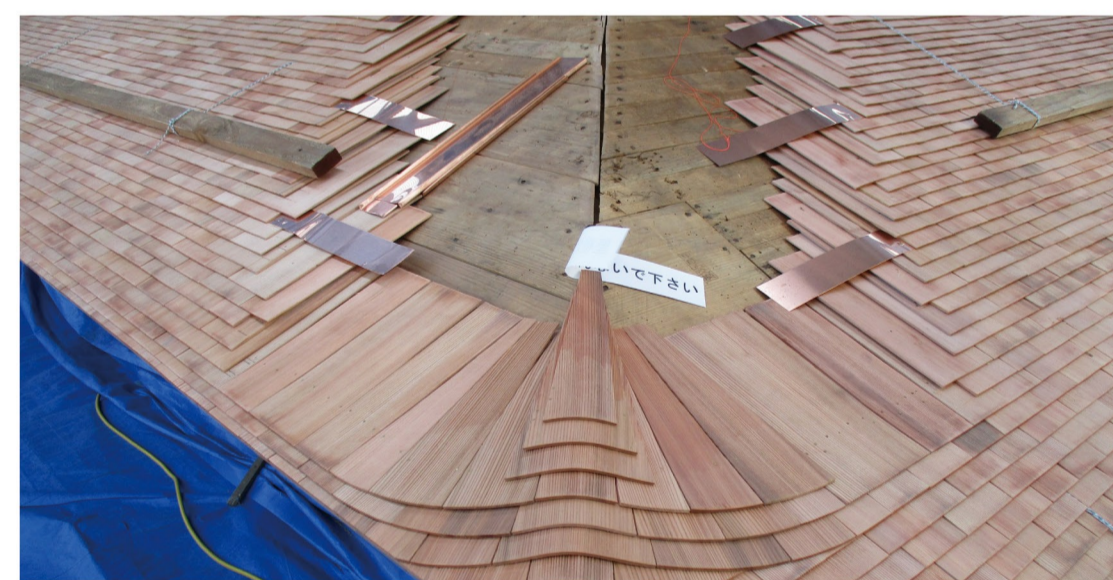


滋野行恒米沢藩少属辞令書

立岩家文書 郡山市歴史資料館蔵
滋野行恒は、立岩一郎の当時の名前。



屋根の葺き替え工事の様子



葺き替え中の屋根の様子



葺き替え中の屋根の様子



葺き替え中の屋根の様子